

テモテ第一 3 : 14-4 : 5

「敬虔と福音」

3:14 私は、近いうちにあなたのところに行きたいと思いつつも、この手紙を書いています。

3:15 それは、たとえ私がおそくなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。

3:16 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現れ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」

4:1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

4:2 それは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、

4:3 結婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。しかし食物は、信仰があり、真理を知っている人が感謝して受けるようにと、神が造られた物です。

4:4 神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべき物は何一つありません。

4:5 神のことばと祈りとによって、聖められるからです。

はじめに

クリスマスとお正月が終わったので、テモテへの手紙第一のシリーズを再開します。

このシリーズではあと 6 回のメッセージを予定していますので、2 月の終わりまでとなります。

その後、3 月 3 日の聖餐式があり、そこからイースターまでの間しばらく詩篇のシリーズを再開します。（今回は詩篇シリーズで 5 回メッセージを語ります。）

このように前もって話すのには理由があります。詩篇シリーズの期間中、教会員の中から礼拝中の祈りをさせていただきたいからです。

やってみようと思う方は、後ほど私のところまで来てください。

2 月上旬に、少し訓練の場を設ける予定です。

テモテ第一 3 : 14 は、この手紙の新しい段落が始まる部分です。

この部分は、ここから始まって 4 章 16 節までつづきます。

この部分は 3 : 14 と 4 : 13 のふたつの個所によってつながれています。

パウロは、いつかテモテのいるエペソに行きたいという願いをつづりますが、それまでの間どのように行動すべきかをテモテに教えます。

この部分の中で、この手紙の主題が表現を変えて繰り返し記されています。

パウロは、この手紙を書いた目的を明確に示します。

それは、福音を前進させるための手段として敬虔な生き方を奨励するためです。（3 : 14-16）

また、教会における偽りの教えに抵抗するためでもあります。（4 : 1-5）

敬虔な生き方をおして真理と指導と福音の前進の模範となるようテモテを励ますことが、パウロの目的でした。（4 : 6-16）

今から私たちが学ぶ中心部分には、この手紙全体の大筋が含まれており、パウロはそこで、しなければならぬおもな事柄をテモテに説明します。

この部分は、以下の 3 つにわけることができます。

1. 敬虔な暮らしと真理に焦点を定める。（3 : 14-16）
2. 敬虔な生き方と神のみことばの真理を否定する偽教師を認識する。（4 : 1-5）
3. 敬虔な暮らしと真理の模範となるようというテモテへの奨励（4 : 6-16）

この部分には学ぶべきことがたくさんありますので、今日はこの中から 1 と 2 を学び、3 については来週 1 月 20 日に学びます。

1. 敬虔な暮らしと真理に焦点を定める。(3 : 14-16)

パウロは、テモテが教会の重要課題に集中することを気にかけていました。それで、敬虔さが不可欠であるとテモテに語ります。

a) 敬虔さが不可欠。(3 : 15a)

私たちがまず目を向けるのは、神の家でどのように行動すべきかです。

「神の家でどのように行動すべきか」という言葉の意味を理解する必要があります。

パウロが使ったギリシャ語は「オイコス」で、「家族」と訳す聖書もあります。

パウロがここで使ったたとえば、建物の家を指すのではなく、信徒の家族を指します。

イエスを信じる信徒は神の家族の一員です。

ですから、各々に、神の教えに従って行動する責任があります。

これは、新約聖書の他の箇所からも明らかです。

エペソ 2 : 19-21

2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。

2:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

2:21 この方であって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

パウロは、クリスチャンの行動とクリスチャン同士の人間関係について気にかけています。

OIC という教会は神の家族です。ここにいる真の信徒は皆、聖霊によって生ける神がうちに住んでおられます。

パウロは、「生ける神」という表現を使っています。これは、旧約聖書から受け継ぐ信仰の遺産へとつながります。

ヨシュア記 3:10 ヨシュアは言った。「生ける神があなたがたのうちにおられ、あなたがたの前から、カナン人、ヘテ人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、エモリ人、エブス人を、必ず追い払われることを、次のことで知らなければならない。

サムエル第一 17:26 ダビデは、そばに立っている人たちに、こう言った。「このペリシテ人を打って、イスラエルのそしりをすすぐ者には、どうされるのですか。この割礼を受けていないペリシテ人は何者ですか。生ける神の陣をなぶるとは。」

詩篇 42:2 私のたましいは、神を、生ける神を求めて渇いています。いつ、私は行って、神の御前に出ましようか。

パウロは、「生ける神」という表現を使って語り、信徒の人生に神が現実にご臨在くださることについて信徒を励まそうとしました。

私たちも賛美で、「聖なる主のご臨在がここにあるので静まろう」と歌うことができます。

この言葉には深く考えさせられます。多くの方は、生ける神のご臨在が自分の内側ではなく外側にあると思っているのではないのでしょうか。

けれども、聖書ははっきりと、神のご臨在は私たちの内側にあると教えます。

ですから、すべての信徒にとって敬虔な生き方は選択肢ではなく必須なのです。

b) 敬虔は、神のご臨在の真理を周囲に見せることを可能にする。(3 : 15-16)

生ける神の教会は、「真理の柱また土台」だとパウロは言います。「真理の柱と基礎」と訳す聖書もあります。

テモテが牧師をしていたエペソの町には、とても大きな建物がありました。それはアルテミスという女神を祀った神殿です。

この神殿は 100 本の柱によって支えられていました。

その土台と柱の役割は、建物全体に強度を与えて安定させるというものでした。

しっかりと建てられていない建物の中には入りたくありません。

日本の多くの建物は耐震構造になっていて、比較的大きな地震にも耐えられます。

そのような良い土台の上に建てられた建物に人は住みたいと思います。

パウロはこのたとえを使って、教会の交わりにおいて敬虔な生き方が果たす重要な役割について強調しました。

敬虔な生き方は、真理を強調し、可視化します。

神のご臨在が私たちの行いをとおして示され、実際に人の目に見えるようになるのです。

これは、私たちが語る福音に説得力を与えます。

人の心も行いも変えない福音は福音ではありません。

信徒の生き方に示される敬虔は、何よりも福音を前進させます。

人は、聖書を読むよりも先に、私たちの生き方に気づきます。

私たちの生き方とおして、聖書を読むのです。

私たちの生き方に違いを見出した人に、人生を変えてくれた福音の真理を指し示すことができます。

イエス・キリストを信じる私たち信徒全員にとって、敬虔に生きることは課題です。

けれども、神の聖霊の助けがあるので、そう生きることは可能です。

私たちが完璧でなくても、聖霊にゆだねて明け渡すなら、必要に応じて神が私たちを完成させてくださいます。

もしロンドンのバッキンガム宮殿でのアフタヌーンティーにエリザベス女王から招待されたら、いろいろと準備したくなるでしょう。

服装の規定について知らなければなりません。何を着ればよいでしょう。

女王をどうお呼びすればよいのでしょうか。

ロンドンでエリザベス女王にお会いできるという光栄な機会にふさわしく振舞わなくてはなりません。

けれども、私たちクリスチャンにとって、お会いする相手は王の王、主の主なるお方です。私たちを救い、ご自身の家族に迎え入れてくださったお方です。

そのためには、敬虔な生き方と敬意をもった関係が要求されます。

パウロは 16 節で、福音を鮮やかに宣言しています。

3:16 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現れ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」

「敬虔の奥義」とは、旧約聖書では隠されていたけれども新約聖書では明らかにされた福音のメッセージを指します。

聖書注解者の間で、この 6 つの声明に関する解釈は異なりますが、私自身は、単純に時系列に並べられているというのが妥当な解釈だと考えます。

「キリストは肉において現れ、」＝処女受胎。神が人となられた。

これは、クリスマスの話の一番重要な部分です。

全世界とそこにあるものすべてをお造りになった創造主が小さな種となり、処女の胎内で育ち、神なる人となられたというのは驚くべきことです。

神は確かに、肉において現れました。

ここが、私たちの伝える福音のスタート地点です。

「霊において義と宣言され、」 = これは少し難しい内容です。
「義と宣言され」というのは正しいと宣言されることです。
この声明は、神が人となられたという声明の後にあるので、イエスを指しています。
イエスはどのように正しいと宣言されたのでしょうか。
まず、父によって宣言されました。

マタイ 3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

次に、私たちの罪のために十字架上で死なれたイエスによって宣言されました。

コリント第二 5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。

さらに、イエスの復活をとおして宣言されました。聖霊はイエス・キリストを死から復活させました。それは、イエス・キリストの死が完全に決定的であったので、それ以上何も要らなかったからです。

イエス自身が十字架上で、「完了した」とおっしゃいました。
こういうわけで、私たちは神の目に完全に義とされるのです。イエスとその十字架上の御業が、私たちが神の目に義と認められるために必要な条件を満たしてくれたからです。

「御使いたちに見られ、」 = イエス・キリストの公生涯の始めには、御使いがどの場面にも見られます。御使いは、マリヤにイエスの受胎を告知しました。（ルカ 1 : 26-35）
御使いは、ベツレヘムの丘にいた羊飼いたちに神の御子の降誕を告げました。（ルカ 2 : 8-20）

御使いは、イエスの復活を知らせ、弟子たちにこの真理を伝えるよう女たちに命じました。（マタイ 28 : 1-8）

「諸国民の間に宣べ伝えられ、」 = これは使徒の働きから始まって今に至ります。

イエスはユダヤ人の救い主となられるべきお方でした。
しかし、ユダヤ人指導者はイエスを受け入れませんでした。

そこから、異邦人へのチャンスの扉が開きました。

過去 2000 年、福音は異邦人へと伝えられてきました。

いつかそのチャンスの扉は閉じられるでしょう。ですから、開いている間に、私たちはすべての人に福音を伝えなければなりません。けれども、ユダヤ人のことも忘れてはいけません。

いつの日か、ユダヤ人の間にリバイバルが起こると私は信じています。

神がイスラエルと世界中にいるご自身の選びの民の間でどのように働かれるか、待ち望みましょう。

「世界中で信じられ、」 = 世界中に何百何千万というクリスチャンがいます。
これは、文化や言語の壁を越え、頑なな心にも届く福音の真理の証です。

「栄光のうちに上げられた。」 = これは、栄光のうちに王座に着かれることです。使徒 1 : 9-11 でルカが記したイエスの昇天のことではありません。

その理由は、「世界中で信じられ、」の後に記されているからです。

復活から昇天までは 40 日間しかありませんでした。

それでは福音が世界中に広まって人々が信じるのに十分な日数ではありません。

テサロニケ第二 1:10 その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の———そうす。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです———感嘆の的となられます。

福音のもたらす益は、イエスの再臨と信徒の復活まで完成しないと言えます。
これは、処女受胎からイエスの再臨まで福音全体をコンパクトにまとめたものです。

2. 神の恵みを曇らせる偽りの教えに注意する。(4:1-5)

4章1節が、その直前の3:14-16とつながっていることに気づくことが大切です。聖書の原書は章や節に分かれていませんでした。4:1が「しかし」という接続詞から始まっていることもつながりを示しています。

4:1-5でパウロは偽教師のもたらす危険とその対処についてテモテに教えます。
この個所に込められた教えを見出すため、いくつか質問をしていきましょう。

a) 何が問題だったでしょう。(4:1-3a)

この教会の問題は、偽教師でした。

b) これらの偽教師にどのようなことが起こるのでしょうか。

偽教師たちは、信仰を離れます。

テモテ第一1:19-20ですでに、ヒメナオとアレキサンデルというふたりの教会指導者たちが信仰の破船に会ったことを学びました。

偽教師たちは教会内にいたのに、もともとの信仰の真理から離れてしまったのです。

彼らは、律法を守ることに重きをおいて、イエス・キリストを信じる信仰を重視しませんでした。

要するに、彼らはその拠り所をイエス・キリストから自分自身に移してしまったということです。そして、神のみことばに関する自分なりの考えに頼るようになってしまいました。

c) 偽教師たちはいつ教会内で活動するのでしょうか。

4:1によると、偽教師たちは「後の時代に」活動するようになります。この「後の時代」という表現を理解しなくてはなりません。

「終わりの日」や「終わりの時」と訳されることもあります。

新約聖書では、イエス・キリストの一度目の来臨から再臨までの期間全体を表現すると理解されています。

イエスは、マタイ24:10で偽教師が出てくることをほのめかしています。一方パウロは、エペソの教会の中から偽教師が出現すると使徒20:29で明言しています。

d) 偽りの教えはどのように始まるのでしょうか。

それは、サタンが働いているからです。

サタンは常に、福音の真理を含む神のみことばの真理から人々の気をそらせようとします。

サタンは偽りと欺きをとおして働きます。

ヨハネ8:44あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

2節を読むと、偽教師たちはうそを語り、偽善的であるとあります。偽教師たちはその良心が麻痺しています。新共同訳と口語訳では「良心に焼き印を押されており」とあります。

この「焼き印を押され」というたとえが重要です。(4:2)

もし肌に焼き印を押されて重度のやけどを負うと、神経が損傷し、感覚が麻痺します。

同じように、欺きの霊を通して悪魔のうそに耳を傾けていたことで、偽教師たちは真理に対する感覚が麻痺したのです。

私たちは終わりの時代の終わりのときに生きています。ですから、教会でさらに多くの偽教師たちが出てくるでしょう。

サタンとその策略にだまされないよう気をつけていなければなりません。

だまされないための最善策は、真理を明確に知ることです。

サタンの力はその偽りにあります。真理で対抗すれば、真理には偽りを打ち破る力があります。

偽りを信じる人はそれがどんな偽りであれ、その偽りによって縛られます。

その偽りは、神道や仏教、イスラム教など、他の宗教かもしれません。

または、エホバの証人やモルモン教などの異端である可能性もあります。

ローマカトリック教や繁栄の福音、自由主義教会など、クリスチャンの団体を名乗りながら偽りを教える教会かもしれません。

それらの偽りを信じるなら、その偽りに縛られます。つまり、サタンに捕まってしまうのです。

けれども、真理を信じることで、偽りから解放されます。

イエスはヨハネ 8 : 32 で「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」とおっしゃいました。

神が私たち OIC を助けてくださり、聖書にはっきりと示されたままの純粋な福音をはじめとする神のみことばに私たちが常にとどまることができますように。

e) 当時のエペソの教会で偽教師は何を教えていたのでしょうか。

偽教師たちは、結婚を禁じたり、特定の食べ物を食べることを禁じたりしていました。

この教えは律法主義のひとつのかたちです。

それは、被造物における神の素晴らしさを否定する教えです。

結婚に関する創世記の教えに真っ向から反対するものです。

また、食べ物を与えてくださるという神の恵みに対する攻撃でもあります。

結婚せずに独身でいることは問題ではありません。特定の食べ物を好まないことも問題ではありません。

これらの事柄を救いに不可欠な要素だとみなすようになるとき、欺かれます。

人が考え出した救いを提供するアイデアは、それがどんなものであれ、偽りの宗教のしるしです。

ここで立ち止まって考えてみましょう。聖書の教えに反することはなんでも、悪魔の教えが入り込む入口となり得ます。

福音の根幹が攻撃されればほとんどのクリスチャンが警戒するでしょう。けれどもサタンは巧妙ですから、文化的に容認されている事柄などを使って、聖書とその教えから人を迷い込ませようとします。

現代では、聖書を信じるキリスト教は否定的にとらえられています。

とくに BBC ではそうですが、多くのメディアは、保守的キリスト教を攻撃します。時代錯誤で現代社会に適合しないと言います。

その結果、多くの教会は現代社会に受け入れてもらえるよう、信仰を妥協しています。

サタンはそこを入口にし、聖書の真理と権威からクリスチャンを離そうとします。

もちろん、私たちは純粋な福音を守らなければなりません。けれども、聖書の主たる教えも守る必要があります。これを「教義」と呼びます。

偽教師たちは教会の中で創造に関わる神の教えに異議を唱えます。

アンディ・スタンリー師は米国の大きな教会の牧師です。

ネット上には、彼の旧約聖書と創造に関する教えに異議を唱えるサイトがあります。

(christianheadlines.com)

ケン・ハム師はじめアンサーズインジェネシスの人々は、彼の教えに異議を唱えています。

クリスチャンは、教会内にいる偽教師を見分ける洞察力が必要です。

OIC では毎年「創造の日曜日」というイベントを行っています。これはとても重要です。昨年は、アンサーズインジェネシスからブライアン・オズボーン氏が来てくださり、OIC の人々の目が開かれ、創造に関して創世記が教えている真理を信じるようになりました。世の中には多くの偽教師がいます。ですから、誰に影響を受けるか十分気をつけてください。

聖書はひとつ、聖霊もひとつです。ですから私は皆さんに、神のみことばである聖書に焦点を定めるようお勧めするのです。聖書を読んで、思いめぐらし、信じ、従ってください。そうすれば、神の聖霊が祝福して下さいます。

人についていくのではなく、みことばをとおして、イエスについて行ってください。

聖書を教える良い教師は必要ですが、偽りを教える教師は要りません。

f) エペソの偽教師問題の解決法は何でしたか。(3-5 節)

結婚と食べ物に関する偽りの教えの解決法は、神が造られたものは良いと信じることで

す。

創世記 1 : 28-31

1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

1:29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、全地の上であって、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与える。それがあなたがたの食物となる。

1:30 また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地をはうすべてのもので、いのちの息のあるもののために、食物として、すべての緑の草を与える。」そのようになった。

1:31 神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

創世記 2:18-24

2:18 神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」

2:19 神である【主】は土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造り、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が生き物につける名はみな、それがその名となった。

2:20 人はすべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけた。しかし人には、ふさわしい助け手が見つからなかった。

2:21 神である【主】は深い眠りをその人に下されたので、彼は眠った。そして、彼のあばら骨の一つを取り、そのところの肉をふさがれた。

2:22 神である【主】は、人から取ったあばら骨をひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。

2:23 人は言った。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。これは男から取られたのだから。」

2:24 それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。

神の与えてくださるものは感謝していただくべきです。(3 節)

しかしパウロは、神のみことばに関する真理を信じて初めて、そうできると言います。

神は結婚も食べ物も造られました。それは、真理を知って信じる人々の間で感謝をもって分かち合うためです。

神がこれらのものを造られたのは、人類に喜びをもたらし、神ご自身に栄光をもたらすためです。

コリント第一 10:31 こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。

パウロは5節で、結婚も食べ物も神のことばと祈りとによって聖められると締めくくっています。

私はこのとおりにしてきました。私は皆さんに神のみことばを示しました。もし祈りをもってこれを受け入れるなら、神のみことばに反するどのような教えにも縛られることはありません。

まとめと適用

では今日のメッセージのまとめと適用について話しましょう。

1. 敬虔な生き方と真理は隣りあわせです。

福音の真理を信じ、聖書の教えに従うなら、敬虔で神に栄光を帰す生き方をするでしょう。

2. 私たちの敬虔な生き方は、未信者の心に語りかけます。

キリスト教には興味がなさそうに見受けられる多くの人たちが、私たちの生き方を見ています。私たちがきよい敬虔な生き方をすれば、その人たちは違いに気づき、近寄ってくるか離れていくかのどちらかになります。

コリント第二 2 : 14-16

2:14 しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。

2:15 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。

2:16 ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。

3. 教会の偽教師に気を付けましょう。彼らはどこにでもいます。

偽りの教えには、自分で真理を知って信じることで対抗します。そうすれば、神に栄光を帰し、心に平安を持つことができます。